

特集：第 66 回定時総会

6 月 17 日に日鶏協の第 66 回定時総会が開催され、平成 26 年度事業報告、平成 27 年度事業計画及び収支予算が報告されるとともに、下記の議案が可決されました。

- 第 1 号議案 定款の一部改正に関する件
- 第 2 号議案 平成 26 年度計算書類等に関する件
(公益目的支出計画実施報告を含む)
- 第 3 号議案 役員報酬等の額及び支給基準を定める件
- 第 4 号議案 平成 27 年度会費の賦課及び徴収方法案に関する件
- 第 5 号議案 役員選任に関する件

今回の定時総会で大幅な役員交代があったことから、今月号の特集として、役員になられた方々のご紹介・ご意見紹介を掲載します。

各役員には以下の点について述べてもらいました。(敬称略)

- ①所属先/職位 自己紹介
- ②理事(監事)就任に当たっての抱負
- ③日鶏協に期待すること
- ④その他ご意見

(1) 栗木 鋭三(会長)

- ①愛知県、(株)クレスト 代表取締役会長兼社長、昭和 21 年 12 月 16 日生まれ 68 才 日本獣医畜産大学卒業 獣医師
- ②大同団結をして、業界の課題を関係者の結集の力で克服して夢の持てる活力のある業界にする事。
- ③・業界人が全員加入して、全員の力で問題解決に立ち向かえる組織であること。
 - ・鶏卵生産者経営安定対策事業の抜本的改革
 - ・TPP 対策
 - ・AI、アニマルウェルフェア、生産資材の内外価格差の是正、規制緩和等々の対応

(2) 都丸 高志 (筆頭副会長)

- ①群馬県、(株) トマル 代表取締役、ヒナの孵化、育成、採卵、液卵等を行っています。 JEP A 発足時より業界活動に加わりました。 この間、アナバリー、AEB、UEP 等とも接触し、JET 設立などにも関係しました。 日本の鶏卵業界の抱える大きな問題は鶏卵品質の第三者認証が無いことを痛感しました。
- ②・日鶏協はまだ会員数が少なく、組織率が低いのが現状です。 つまり少数の限られた人の活動に依存しており、これは改善すべき問題です。
・今まで諸先輩によりいろいろ学んできました。 意見交換は重要であると考えています。 自由競争の社会のなかでも結束できる協会にしたいと考えております。
- ③競争の中の協調

(3) 秋田 正吾 (副会長)

- ①広島県、(株) アキタ 代表取締役副社長
- ②業界活動は初めてであり、まだまだ判断がつかないことも多いのですが、業界があつて、自社の存在があるとの考えより、明日の養鶏業界のために一生懸命勉強してお役に立ちたいと考えています。
- ③現状では業界の 5-10 年先が見えません。 TPP、AI、雇用、内外格差など問題は山積みです。 大・中・小、規模を問わず団結して難問に立ち向かう事が大切だと考えます。

(4) 彦坂 誠 (副会長)

- ①神奈川県、神奈川中央養鶏農業協同組合 専務理事
横浜生まれで県央郡部の育ちです。 学校卒業後岩手と千葉で 1 年ずつ神奈川の伊勢原で 1 年弱研修させて頂きました。
- ②鶏卵の消費促進、新たな需要の開拓に少しでも貢献出来ればと思っています。
- ③今以上より多くの会員の意見や要望を汲みあげ、組織や事業の在り方に反映できる協会になるよう期待します。

(5) 廣川 治 (専務理事)

- ①東京都、日鶏協専務理事、3 月末まで農水省に在職。 畜産技官で 30 年前に鶏卵係長でした。
- ②・「アカデミック」、「インターナショナル」を心掛けます。 欧米の現状を見ると、日本だけで養鶏を考えることはできなくなっているからです。

- ③・我が国の農業でこれだけ自立した生産者がいる業界はなく、自ら政策を考えることは良いことと思います。
 - ・透明性を重視し、手数料・組織についても良く考えていきます。
- ④・職場が明るいものになるよう努めます。
 - ・役員に対しては協会活動を毎月詳しく報告していきます。

(6) 青野 正宣 (理事)

- ①青森県、(株)青森ポーター代表取締役、(有)ノースランド 相談役、eL・パワー(株)代表取締役会長、(一社)青森県配合飼料安定基金協会 理事長、全日本畜産経営者協会 理事長、青森県八戸飼料コンビナート振興会 会長
- ②若い世代に引き継ぐ為の協会及び業界内外の問題点を整理しつつ、スムーズに移行させること。
- ③・未来を見据えた組織となる事
 - ・競争を阻害する事無く、発展していく業界を目指す。
 - ・グローバルな競争の中で、関連産業、行政とも真摯に向かい合える業界団体となる事
 - ・業界全員参加を目指す。

(7) 赤木 八寿夫 (理事)

- ①宮崎県、フュージョン(株) 社長、本来はヒナ生産業ですが、採卵・GPなども行っています。最年少の理事ですので、宜しくお願いします。
- ②養鶏産業の経緯・歴史に対して理解が低いので、何が正義なのかを先輩方より勉強していきます。
- ③養鶏産業の発展は必要なことです。日本の養鶏業界も海外情勢(動物福祉、食の安全、初生オス雛処分問題等々)を理解し、世界レベルでの問題検討を行う必要があります。これらの問題に個々の生産者が取組むのは難しく、日鶏協で取組む必要があります、そのための会員よりの力添えをお願い致します。

(8) 磯ヶ谷 正徳 (理事)

- ①栃木県、有限会社 磯ヶ谷養鶏園代表取締役
- ②「業界の発展なくして個々の繁栄なし」とおっしゃる栗木会長のサポートが少しでもできるよう、甚だ微力ではありますが精一杯努力していく所存でございます。

- ③日鶏協が、「生産者の、生産者による、生産者のための協会」になって欲しいと思います。また理事の一人として、生産者に期待される協会になるよう協力していきたいと思っています。

(9) 上田 正 (理事)

- ①鹿児島県、 マルイ農協代表理事組合長
- ②九州地区協議会代表としての理事の立場から、九州地区の鶏卵事情を理解していただき、今後の生産、販売、加工、輸出の推進に、尽力する所存です。
- ③これまでの会員は鶏卵生産者の一部に過ぎず、生産者の総意ではなかったように思われます。鶏卵基金の加入者全員に加入していただき、生産者の統一した意見で今後のロビー活動にいかしていただきたい。今後 TPP が成立する方向にある中、鶏卵に対する関税は撤廃されようとしている現状にあって、生産者は一つにまとまり、海外に対抗することが肝要と考えます。

(10) 梅原 正一 (理事)

- ①千葉県、(株)菜の花エッグ社長、全国養鶏経営者会議 (全鶏会議) 会長
- ②全鶏会議は中小の養鶏経営者の集まりで 200 社ほどが集まっている団体ですが、その会長として日鶏協理事になったので、中小経営者の意見反映をはかります。
- ③ 1. 養鶏家全員が結集できる組織
- 1) 会員が養鶏生産者である。
※県団体は会員としない。
 - 2) 養鶏団体は賛助会員とする。
 - 3) 県団体・地域団体の意見を集約する組織
組織図に県・地域団体の位置づけをする
理事には県・地域団体の代表を充てる。
 - 4) 会員間のコミュニケーションが取れる事業の開催
2. 平等な会費徴収
- 1) 養鶏家であるなら、日鶏協の会員となる。
 - 2) 県・地域・養鶏団体の会費は少額とする。
※会費の二重・三重払いを無くす。
 - 3) 国庫事業に参加する養鶏家は会員とする。
※鶏卵価格差補填事業の手数料(10 銭~20 銭)に会費を組込む
3. 透明性のある活動と内外における広報活動
- 1) 大中小に偏らない政策

2) 消費拡大運動

末端の活動支援（たまニコキャンペーン等）

中央主導による学術広報

3) AI 対策・TPP 対策

4) 農政活動（養鶏安定法の整備）

（11）岡田 望（理事）

①千葉県、 県農林水産部畜産課/課長

この度、日本養鶏協会理事を拝命いたしました岡田でございます。会員をはじめ、関係者の方々には日頃よりお世話になっております。以後、皆さまのお力添えを頂きながら任に努めていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

②千葉県は全国有数の養鶏県です。平成 25 年の畜産産出額は 1, 094 億円で、そのうち鶏卵の産出額は 326 億円で全国第 2 位となっています。

鶏卵生産者経営安定対策事業をはじめ、協会が実施している事業は養鶏農家の経営安定に大きく貢献しており、本県においても例外ではありません。多くの飼養羽数を抱える千葉県出身者として、各種事業等、協会の取組が円滑に実施できるよう尽力してまいります。

併せて、養鶏振興の推進を千葉県から全国に向けて波及・発信していけるよう、今後一層、努めてまいります。

③日本養鶏協会が、養鶏業界の全国団体として長きに亘り牽引役を果たしてきたことは皆さまが知るところです。 養鶏を取り巻く状況は依然として厳しいものがございますが、今後も協会及び養鶏業のさらなる発展に向け、活動の推進に関係者が協力していけるよう、日鶏協が要となっていくことを期待いたします。

（12）桑田 義文（理事）

①東京都、全農畜産総合対策部 部長 昭和 58 年に全農入会、飼料事業を一貫して担当、昨年 8 月、初めて販売事業担当となりました。

②業界の更なる発展にむけて、協会の生産者会員の皆様をはじめ、行政会員、組織会員が一体となって課題解決にとりくむことが重要です。 微力ではありますが、他の役員の皆様とともに全力を尽くす所存です。

③TPP や AI, アニマルウェルフェア、鶏卵消費の拡大など、諸課題に対して鶏卵団体の代表として、情報の収集と発信、意見の集約と具申を通じ、業界発展の扇の要としての活動を望みます。

(13) 齋藤 利明 (理事)

- ①愛知県、知多養鶏農業協同組合 組合長、全鶏連会長、県養鶏協会副会長
- ②・養鶏振興法を議員立法で是非実現し、安心できる養鶏産業にしたいと考えています。
 - ・TPP で養鶏業界は 350 億円の損失が発生すると予測されていますが、しばらくは米国 AI の影響がありましようか。
- ③養鶏産業の為の政策実現を行うために、農水省に働きかけること。

(14) 坂本 修三 (理事)

- ①岡山県、坂本産業 (株) 社長
- ②今後ますます日鶏協が前進することを期待して、微力ながら尽くす所存です。

(15) 佐々木 幸良 (理事)

- ①鹿児島県、県農政部畜産課 / 畜産課長 私は昭和 61 年に鹿児島県に入庁以来、家畜保健衛生所や農政部畜産課に勤務し、本年 4 月に、鹿児島県農政部畜産課長を拝命いたしました。この間、家畜衛生業務や畜産行政の現場において畜産農家の衛生対策の向上、施設整備、経営安定対策等に携わって参りました。
- ②最近の養鶏を巡る情勢につきましては、皆様ご承知のとおり卵価が例年に比べ高水準で推移するとともに、むね肉が加工向け需要の伸びにより堅調に推移しております一方、養鶏農家の皆様の経営は配合飼料価格や資材費が高止まりするなど、厳しい状況が続いております。行政機関に所属する理事としましては今後とも養鶏農家の皆様の経営安定が図られるよう予算枠の確保等に、努めていきたいと考えております。
- ③一般社団法人日本養鶏協会の発展に寄与できるよう、微力ながら力を尽くす所存でございます。会員の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。
養鶏農家の経営安定を図るためには、日本養鶏協会の役割及び存在意義が益々重要になると考えております。日本養鶏協会におかれましては、今後とも養鶏農家の皆様への指導的な役割を果たして頂き、安全で高品質な鶏卵・鶏肉の生産や地域の防疫体制の確立などに益々御尽力を頂きますようお願い申し上げます。終わりに、一般社団法人日本養鶏協会のますますの御発展と、会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたします。

(16) 杉原 勲 (理事)

- ①徳島県、県養鶏協会会長、徳島県養鶏販売農協 組合長

- ②中国・四国地域協議会から選出されましたので、皆さん方といっしょに日鶏協をささえていきたいと思えます。
- ③・日鶏協の会費自体が高いので下げたいと思えます。
 - ・卵価安定基金の掛金も高いので下げてもらいたい。

(17) 鈴木 憲一 (理事)

- ①茨城県、 県養鶏協会会長、日本養鶏協会関東甲信越協議会長、(有) スズキファーム 代表取締役
- ②関東甲信越の養鶏家の意見を中央に伝える。
- ③養鶏を日本、農業の中でどの様に位置づけしていくか

(18) 高村 誠 (理事)

- ①富山県、 株式会社タカムラ鶏園 専務取締役
- ②自分は人一倍好奇心が強く、ビジネス面においても「新しい仕事にチャレンジしよう」とすることがモチベーションに繋がると考えています。現場で働く社員と同じ目線に立ち、気持ちを汲み取りながら改革を進めていくことは自分自身が、成長していける原動力です。目標に向かって挑戦する力とそれによって身についた積極性を活かしたいと考えています。このような責任のある就任を仰せつかり、微力ではございますが、諸先輩各位、並びに会員の皆様のご意見、ご助言、ご協力を仰ぎ、業務に邁進してゆく決意でございます。自ら努力し、ともに理解し合い励まし合って、信頼ある日鶏協にしていきたいと思っております。
- ③グローバル化の中で、生産者が経営において「本当に大切な」ことは、なになのか。卵づくりという名の下で、近年我々の身の回りにおいて大きく変わろうとしております。「動物愛護」「TPP」など避けて通れない問題だと思えます。協会全員が、参加できる開けた日鶏協であってほしいと切に願います。

(19) 竹下 博 (理事)

- ①鹿児島県、 県養鶏協会理事、(株)霧島エッグ社長
鹿児島県は畜産王国で牛・豚・食鳥・採卵鶏とも盛んな土地です。県も畜病対策には相当注力してくれています。
- ②業界の発展なくして各自の発展はないと、考えています。会長を支えながら業界の為に尽くす所存です。問題解決のために、自分でできることを行います。

- ③鶏卵生産者経営安定対策事業の充実、家畜防疫互助基金支援事業の充実、両基金加入並みの会員加入促進
- ④更なる協会の発展を！

(20) 中塚 陽二郎 (理事)

- ①岡山県、 県農林水産部畜産課 課長 昭和 59 年に岡山県庁へ入庁し、獣医師として家畜防疫、畜産物の生産振興等に携わってまいりました。平成 26 年より現職を務めております。
- ②養鶏業界を取り巻く情勢をみますと、鶏卵価格は比較的高値で推移しておりますが、飼料価格は高止まりの傾向にあり、また、鳥インフルエンザ発生予防の対策など重要な課題を抱えております。そのような状況の中、本協会が果たす役割はますます大きくなると考えます。微力ではありますが、理事の一員として本協会のさらなる発展のために尽くしてまいりたいと存じます。
- ③消費者の食の安全への関心は高く、安全で安心な国産畜産物への需要は高まっています。安全で美味しい鶏卵を消費者に届けていくためには、生産者が一丸となり活動していくことが重要です。また、小規模から大規模まで、様々な生産者の声が反映される協会として、養鶏産業の更なる発展のために寄与していただくことを期待します。

(21) 中山 真一 (理事)

- ①石川県、 県養鶏協会 副会長、(株)ナカヤマエッグ 代表取締役社長
- ②理事に就任いたしました中山です。突然の就任ではございますが、日本養鶏協会の活動については諸先輩方の指導を頂きながら精一杯務めさせていただきたいと考えております。エッグサイクル等による鶏卵価格の変動、飼料価格の高騰、T P P 参加による関税率等の課題、問題は多々ありますが、業界発展のためにお手伝いさせていただきます。今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。
- ③会員相互の情報の共有と、国際競争力のある養鶏産業を維持するための事業及び活動

(22) 中山 晋吾 (理事)

- ①兵庫県、 県養鶏協会会長 55 才、養鶏に従事して 30 年余り
- ②私の規模は小規模なので、日本の小規模養鶏が生き残れる道を開拓する。
- ③日本の養鶏産業の大同団結を目指す。

(23) 松井 均 (理事)

- ①滋賀県、県養鶏協会 理事 日本養鶏協会に参して 6 年理事職 2 年也と理事の責任を持って発言が出来る様になった。
- ②中小規模生産者の考えを聞いて発言させて頂きたく思っています。
- ③日鶏協において意見の違いで大規模、中小規模の力の差で圧力をかけ無い理事会になって頂きたく思います。
- ④ 26 年度においてはいろいろな問題が出てきました。でも日鶏協として一本化するためには理事として責任を持って生産者と共に業界を一つにして頂きたく思います。

(24) 松本 義治 (理事)

- ①広島県、一般社団法人 広島県養鶏協会副会長、農事組合法人 世羅ファーム 組合長理事
- ②新参者ですが、よろしくお引き回し下さいますようお願いいたします。一人でも多くの方が入会し、正会員となられるよう、そして、本来の生産者のための会になるよう、がんばりたいと思っています。
- ③協会を守るための会ではいけない。生産者を守るための会であってほしい。

(25) 三品 清重 (理事)

- ①福島県、県養鶏協会会長、北日本地域協議会会長、県飼料安定基金協会理事長、(株)アグリテクノ社長：採卵鶏と食品製造業(鶏卵加工品やプリン、果汁) フクベイフーズ社長：牛タン加工とGP、問屋。
- ②トリ屋になって 40 年以上たつが、畜産業のステイタスも上がってきた様に感じています。また若い世代のスキルを見ると、すごい産業になったと感心していますが、次の世代がやりやすい産業とするための組織作りをしたいと思えます。
- ③・竹下前会長の功績を無にせず、争いの連続は無にしたいと考えます。
・5-10 年先の業界を良くするための議論をスタートしたい。今後の日鶏協の活動に大いに期待しています。

(26) 安原 健二 (理事)

- ①岡山県、県養鶏協会会長、安原産業(株)代表取締役社長、父親の後を継ぎ昭和 53 年から養鶏業に携わっています。全国団体への役員就任は初めてですので、諸先輩には色々お世話になることが多々あると思いますが、よろしくお願い致します

- ②県、地域の代表と思い、地方創生への取り組みを行うとともに、安心して養鶏業を継続できる施策・事業の充実を図り、日鶏協の位置づけが将来に繋がる組織・運営が出来るように努力していきたい。
- ③・生産者あつての団体、生産者のことを一番に考える組織とすること
 - ・鶏卵生産者経営安定対策事業の手数料の減額
 - ・個人会員の加入促進（たとえば、基金加入者＝会員）
 - ・年会費の削減
- ④この度の理事は、地域・大、中小生産者・行政（県）等でバランスよく構成されていると思われるので、何に関しても忌憚のない意見が言える開かれた会にしてほしい。

（27）三宮 正信（監事）

- ①熊本県、 県養鶏協会 会長、熊本県養鶏農業協同組合 代表理事
- ②養鶏業界をめぐる厳しい現状を克服し本来の安定的鶏卵業界の発展の為、自由闊達に意見交換を行って参りたい所存です。 また監事として、会計帳簿等の厳格な調査の上、事業執行運営が法令、若しくは定款に基づいた状況であるか、確認に努めていきたい。
- ③全国の鶏卵生産者、関連業者の皆様方の安定経営の為に、既存観念を大切にしながらも革新的な行動力のある組織として各役員一丸となり精励恪勤して参りたいと考える次第です。

（28）高野信夫（監事）

- ①青森県、（有）芙蓉農産 社長
- ②養鶏協会理事会・委員会・総会等が公正平等に運営され、会員の皆様の多くの声が届き、業界が良くなっていくよう微力ながら監事を務めさせていただきます。
- ③・個々の企業では話を聞いてもらえない業界の課題を行政に伝え、業界の改善につなげてほしい。
 - ・会員に公平に情報発信なされる理事会にすること。
 - ・生産現場と事務局との距離がある場合には、その梯になります。

（29）中林 政義（監事）

- ①東京都、 日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事

当連合会に入組して本年で 43 年目を迎えます。また貴会の監事として 6 年が過ぎました。監事として過去に色々な経験をさせて貰い、自分としても多少の自信がついたのではと自負しております。

- ②監事就任に当たり、これまでの反省も踏まえ、監事としての役割において、内部監査（適宜）及び定例監査の実施に伴い、監事として財務・業務内容等を十分精査していきたい。また、理事会においても、監事の立場より意見を述べさせていただきます。
- ③生産者各位が大同団結して新体制になったことから、日本における養鶏産業のリーダー的組織として、業界の発展の為に、役職員が一丸となり、難題に対しては的確な判断の基に、法令・定款・規定及び規約に則り、解決して頂きたい。
- ④理事・監事及び事務局の組織としての責任体制を明確にしていきたい。また職員及び派遣（契約）社員の入会・退会の際には、経歴等を明確にし、役員会に報告する事を励行して貰いたい。

【農政関係】

・TPP（環太平洋経済連携協定）関係

○米議会上で貿易促進権限（TPA）法案が成立したことに伴い、急速に成立に向けての交渉速度が加速しています。7月25日からハワイで首席交渉官会合を開いたのに続き、28日から閣僚会合が開かれています。この動きに対応して7月23日中央畜産会を中心とする畜産ネットワークで、自民党本部において総決起集会が開催され、養鶏関係者も地方よりの生産者も含め、決起集会に参加しました。交渉に当たっては自民党決議、衆参両院農林水産委員会の決議の遵守と履行を要請致しました。当協会としても会長・副会長・専務理事が畜産ネットワークの一員として27日からハワイに出張して、交渉の推移を見守っています。

【取込詐欺情報】

7月20日に北海道の会員様より連絡頂きました。その会員様によれば、東京都の食品扱会社から、6月中旬に突然電話があり、月/水/金の週3回4-5ケース納入して欲しいというものでした。会員様は当協会の過去のニュースをお読みいただいていたこともあり、一切取引に応じなかったとの事でした。

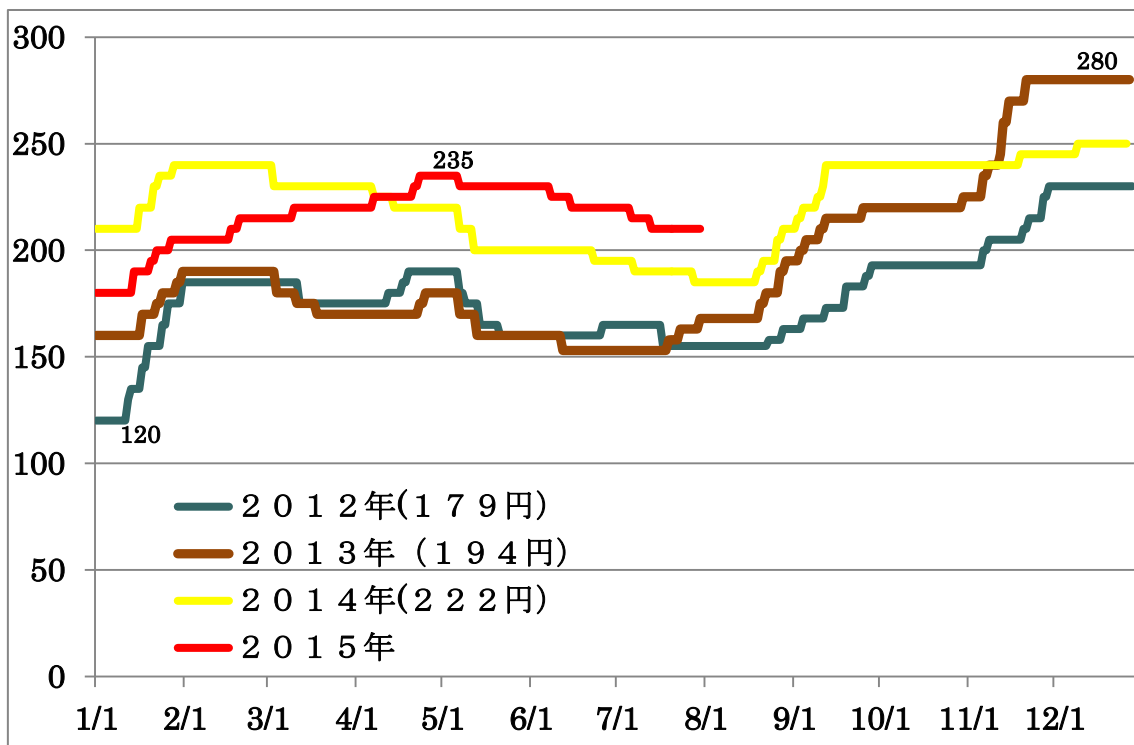
この手の動きは未だ続いておりますので、各位におかれても充分ご注意下さい。

【相場動向】過去 10 年間の 6 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	171	180	167
平成19年	154	165	148
平成20年	185	185	185
平成21年	160	160	160
平成22年	183	190	175
平成23年	190	205	185
平成24年	161	165	160
平成25年	155	160	153
平成26年	199	200	195
平成27年	223	230	220
平均値	178	184	175

平成 27 年 6 月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は 223 円となりました。これは昨年の 199 円よりは 24 円高くなりましたが、先月の平均値 230 円よりは 3 円安くなりました。

【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 暦年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



【鶏卵関係主要計数】5月までの1年間計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千トン)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	前年
平成26年							本年	
6月	8,838	106.5%	447	103.2%	850	103.0%	199	155
7月	8,866	116.8%	450	104.4%	809	100.6%	190	160
8月	7,280	102.2%	426	100.1%	801	102.4%	192	175
9月	8,831	105.5%	451	104.5%	826	107.2%	231	211
10月	8,497	109.9%	488	105.2%	819	96.4%	240	220
11月	8,136	98.7%	454	97.8%	843	101.2%	248	259
12月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
1年間小計	102,693	104.3%	5,570	101.4%	9,957	101.8%	217	215

5月までの一年間での配合飼料出荷量/一人当たり家計消費量が同じ様な比率で前年対比伸びており、注目に値します。 それに対して雛餌付羽数の年間累計がいまだ大きなものとなっています。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (月当たり/トン)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936

・6月の標準取引価格 215.46円/Kg(補填なし)

[\(2\) 国産鶏卵に関する普及啓発事業](#)

いいたまごの日イベントに向けて、[ネットを利用した普及啓発](#)を行う作業が進行中で7月30日に最初の情報発信をおこないました。 また今年はいいたまごの日を「オムライスの日」と位置づけ、[「オムライス リーフレット」](#)を全

国的に卵売り場に置く活動を、生産者・流通業者一体となって進めるべく作業中です。

(3) 畜産物輸出特別支援事業

鶏卵輸出準備分科会

6月30日に第一回の通常総会を行い、27年度事業計画、収支予算、役員案などが承認されました。7月1日には第1回輸出先国調査検討委員会を開催し、8月16日～21日にかけて輸出関連調査団を派遣することとなりました。

(4) 食の魅力・消費促進全国展開事業

7月21日に関係団体が集まり、今秋に予定されている事業について具体的に検討を行いました。今年度は11月に東京と香川県で国産飼料（特に飼料米）使用畜産物についての啓発活動を行うこととなりました。

②執行部引継

7月9日に前年度執行部と新執行部の引継が、事務局を交えて行われました。

③理事会

7月17日に平成27年度第3回理事会が開催され、活発な議論がなされました。昨年度は2委員会であった委員会を、今年度は単一の専門委員会に絞る方向となりました。その後、全役員より役員就任についての抱負や、日鶏協に求めることなどについての発言があり、大いに盛り上がりました。

④地域協議会

6月26日 関東甲信越地域協議会主催の養鶏研究大会

7月15日 中国四国地域協議会通常総会

7月22日 九州地域協議会通常総会

事務局より最新の鶏卵情勢などの説明を行いました。

⑤日本鶏卵生産者協会(JEPA)解散が決定

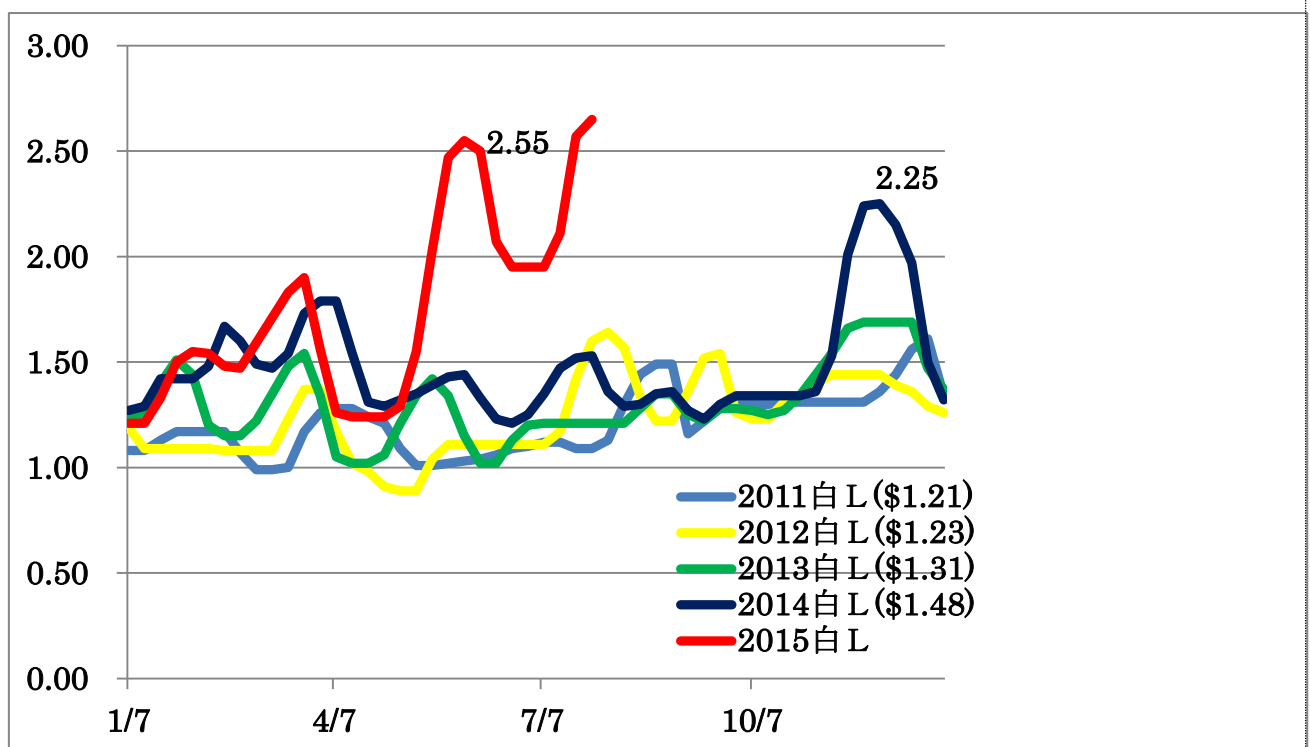
7月17日にJEPA臨時総会が開催され、解散が決定されました。JEPA解散に先立ち、子会社であるJET（日本鶏卵トレードセンター）の解散も決定さ

れました。また JEPA が行ってきた AI 経営再開保険等の業務は日鶏協に継承されます。今後は JEPA の解散・清算業務を行います。

⑥ 互助金交付認定委員会

7月23日に27年1月にAI被害を受けた生産者に対する検討会が行われました。

【米国鶏卵相場】 再度上昇中 7月28日に\$2.69（史上最高値）に到達 米国北東部鶏卵卸相場 白L玉 ダース/ドル



米国は鳥インフルエンザの結果、卵白粉等の EU からの輸入を開始するとともに、メキシコより原卵輸入を認める等、非常事態が続いております。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2015年7月31日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)